



# News Letter



第10号

## 大阪日米協会/JAPAN-AMERICA SOCIETY OF OSAKA

〒541-0053 大阪市中央区本町4丁目1-13 Tel: 06-6263-9753, Fax: 06-6263-9773  
http://www.jaso-1946.com E-mail: jaso@takenaka.co.jp

### 春の日帰り旅行～姫路城と灘の酒蔵～ 2006年4月15日(土)

今回の旅行では兵庫県の東西、灘と姫路を訪れました。まず、灘五郷のひとつである御影郷の蔵元に立ち寄り、酒蔵見学や利き酒などを楽しみました。午後は白鷺城の名で知られる世界遺産の姫路城へ。あいにくの雨模様となりましたが、満開の桜に彩られた"雨の姫路城"は風情があり、城内見学も姫路城観光ガイドの皆さんの詳しい解説で見どころ満載でした。

#### <参加者の声>



安田隆夫・和子さん(大阪市)

4月中旬というのに今年は肌寒く、小雨の中の日でしたが、参加して良かったと感謝しています。神戸酒心館では、灘の酒がおいしいのは、宮水、大粒米(山田錦)、六甲山からの冷たい風、吉野杉を使用した酒樽、丹波地方の優れた腕の杜氏がおられたことと知りました。また、江戸時代には江戸で消費されるお酒の7割が灘の酒で占められたと聞き、感心しました。米は35%まで精米したものを使い、残りの65%は米ぬかや化粧品の原料、おかきなどに使用し、捨てるところはないと聞きました。利き酒もさせていただきました。姫路城では健脚コース、ゆったりコース、らくらくコースに分かれ、私達はらくらくコースで西の丸をゆっくり見て歩きました。ゆるやかな坂道を右へ曲ると西の丸の広場。そこには染井吉野桜の中で一段と鮮やかなしだれ桜があり、歓声が上がりました。好古園では一緒だった辻本さんとコーヒーをいただき、皆さんとよりお近づきになれたことに満足しております。感謝。



#### <アンケートより>

「あいにくの雨でうんざり?とんでもない、恵みの雨でした。もし快晴だったら、花見とお城見物の人波にもまれ、くたくたになっていたはず。酒と美味と風情あふれる城と桜。すばらしい一日でした」 (三木健二さん)

「いろいろお酒を楽しめました。お酒の味の変化についても理解を深められました。姫路城の守りの鉄壁さなど、説明も興味深かったと思います」 (上田雅春さん)

### 昼食講演会「大工道具とものづくりの心」2006年3月3日(金)



竹中大工道具館館長の赤尾建蔵氏を講師に迎え、本町の綿業会館で開催しました。日本建築を支えてきた大工道具の歴史と、それを築きあげてきた工匠たちの「技と心」について、スライドを交えた分かりやすい解説と、逸話を盛りこんだ興味深いお話が大変好評でした。講演の後には、国の重要文化財でもある綿業会館の中を職員の方に案内していただきました。参加者の皆さんは、各部屋ごとに贅沢な趣向と工夫を凝らした内装を熱心にご覧になり、繁栄と戦渦の時代を経てきた会館の歴史に心を寄せておられました。



### 大相撲春場所観戦とワッツ女史の大相撲談義 2006年3月26日(日)



毎年ご好評を頂いているカトリナ・ワッツさんの大相撲談義では、各相撲部屋や親方の雰囲気、番付の見方や力士のお給料まで事情通ならではの面白いお話がうかがえ、参加者からもユニークな質問が次々に飛び出しました。今年は千秋楽観戦にも同行して解説していただきました。千秋楽は優勝決定戦までもつれこんで会場も大いに盛り上がり、テレビでは味わえない臨場感を満喫することができました。残念ながら、ワッツさんは今年を限りにご帰国されるので、来年の大相撲談義には新たな講師をお迎えする予定です。



## スケジュール

2006年 6月23日(金) 18:30~

### English RAKUGO ダイアン吉日の英語落語

場所: ホテルニューオータニ大阪

イギリス人落語家ダイアン吉日ことダイアン・オレットさんを迎え、楽しい英語落語をお聞きいただきます。落語独特の巧みな話芸と演技、さらに日本人にも外国人にもわかりやすく工夫を凝らした英語落語の魅力を体験してください。



7月21日(金)

2006年度理事会・総会・懇親会  
(リーガロイヤルホテル)







J.トーマス・シーファー  
駐日米国大使

## シーファー大使のメッセージ

大阪日米協会の創設60周年に際し、心よりお祝いを申し上げます。日米の強い絆は、両国民の友情と信頼に基づくものであります。貴協会は60年にわたる精力的な活動を通じて、日米両国民の友好と親善の強化と促進に寄与してこられました。竹中統一会長をはじめ歴代の会長や会員の方々のご努力は、国際的な善意の親善がいかに有効であるかを、長きにわたって如実に示してこられたと思います。ジョージ・ブッシュ大統領が昨年11月に京都を訪れたおり、ブッシュ大統領、小泉純一郎首相とともに、日米両国が協力して世界的な問題解決に取り組むべきだという点を強調しました。アメリカと日本は、今後も両国の協調関係と、大阪日米協会に代表される草の根の努力をモデルとして、世界の平和と繁栄に貢献すべく全力を尽くしていくことでしょう。今後の60年も、大阪日米協会が有力かつ重要な民間外交の模範となり、こうした活動が世界的に広がっていくことを期待します。そして、この記念すべき機会に祝辞を送らせていただけることを光栄に存じます。60周年、おめでとうございます。(正文は英文です)

## 米海軍カーチス・ウィルバー号の大阪寄港

4月3日(月)に米海軍第7艦隊所属のイージス艦「カーチス・ウィルバー」が大阪港に寄港しました。在大阪・神戸米国総領事館からのお招きで、歓迎行事に大阪日米協会から黒川事務局長が出席しました。当日、同じく招待された大阪南港さくら幼稚園の園児の皆さんを通してオドネル艦長以下乗組員の代表に花束を贈呈いたしました。また、艦上レセプションには、竹中会長もご招待を受けて出席しました。艦長からは、午前には花束を贈呈してくれたような子供達の将来のためにも、平和を守っていくことが大切であり、その為に尽力したいとお言葉がありました。また、レセプションでは、ダニエル・ラッセル総領事やトーマス・フォーリー元駐日大使も歓迎の挨拶をされました。



## 北カリフォルニア日米協会使節団レセプション

当協会の60周年事業の第一弾として、4月14日(金)午後5時から、100周年記念行事で来日中の北カリフォルニア日米協会(JSNC)の使節団をお招きして、リッツカールトン大阪でレセプションを行いました。JSNCから、ジョン・トーマス会長ら12名、天江特命全権大使にもご出席いただき、当協会からは20余名の方に参加していただきました。竹中当協会会長に続き、ジョン・トーマスJSNC会長がご挨拶された後、松浦功JSNC副会長からJSNCの100年の歴史についてご紹介がありました。当協会からは、大阪市に関するビデオをご覧に入れ、また、竹中会長が大阪都心部の主要プロジェクトについて説明いたしました。ポール・ハワード領事の乾杯で始まった立食パーティは、終始賑やかで参加された方々は、親交を深められたようです。



ジョン・トーマス  
JSNC会長



松浦功JSNC  
副会長



## 会長のひとりごと

去る4月13日、ダニエル・ラッセル総領事にもお越しいただき、副会長フィリップ・カンパネラご夫妻を囲む送別会を行いました。当誌第9号にご本人からのお別れの言葉を掲載しましたが、このたび58年にわたる日本生活に終止符を打ち、米国に帰国されます。改めて、長年にわたるカンパネラ氏の当協会へのご貢献に感謝を申し上げます。その翌日、北カリフォルニア日米協会(JSNC)使節団をお招きしたレセプションは、大いに盛り上がり、親睦を深めることができました。その際、JSNCから当協会に贈られた記念盾の言葉をご紹介します。

In Grateful Appreciation to  
Japan-America Society of Osaka  
For its Strong Commitment and  
Dedication to U.S.-Japan Relations and  
The Japan Society of Northern California  
April 2006  
Centennial Board Mission

Japan Society of Northern California  
April 14, 2006 Japan-America Society



## 会員便り



矢野光男さん  
(白鹿記念酒造博物館)

### シカゴに里帰り

ヘルシーな日本食が世界的なブームとなり、最近では純日本料理店でない、いわゆるフュージョン料理店でも刺身・寿司がメニューに取り入れられています。それを追うようにプレミアム酒(清酒)が、米国のいわゆる「酒バー」にも登場し、若者の間で脚光を浴びています。このように、海外で好評の日本酒のナウイ飲み方が日本にフィードバックされると、日本酒は若い人の間でもクローズアップされることになるでしょう。先日、縁あってシカゴ日米協会の「日本酒セミナーとSake Tasting」に招かれました。日本酒の対米輸出は2年連続2割増の勢いです。そんな折、私の「第二の故郷」であるシカゴのダウンタウンで、いま最もホットなクラブとして知られる「Reserve」で、日本酒の文化と造酒の匠について話をしました。鏡開きに続き、同協会のネーム入り木樽で乾杯。その後、3種類の利き酒会、日米往復航空券等の当たるラッフルなど、盛りだくさんな内容で好評裏に終了しました。同じ日米協会の催しゆえ、当協会から借用させて頂いた日米両国旗をあしらった法被を着ての鏡開きには大きな拍手が寄せられました。



仲元 紹さん  
(大阪市)

### 大相撲観戦記

先日、大阪日米協会恒例の大相撲大阪場所、千秋楽の観戦に参加させていただきました。観戦に先立って、カトリナ・ワッツさんから大相撲にまつわる楽しい話や今場所の見所などをお聞きました。エストニア出身の把瑠都関が十両で全勝優勝を果たし、また一人、将来楽しみな大型外国人力士が出てきました。ファンサービスで大人気を博した北桜関は残念ながら負け越しましたが、声援はひときり大きかったです。そして、負ければ引退かという大関魁皇関が、新大関を確実にした白鳳関に勝利。また、負ければ横綱挑戦が白紙となる栃東関が横綱朝青龍関に勝利し、白鳳関と朝青龍関の優勝決定戦という「相撲の神様」の思召しかと思えるほどの好展開に、館内は大いに盛り上がりしました。最後に、激戦を制した朝青龍関は優勝インタビューで「大阪のみなさん、まいどおきに！」と絶叫し、館内は割れんばかりの拍手となりました。来年の大相撲観戦も今回のように盛り上がることを期待しています。ワッツさんは日本に来て相撲に魅了されたようですが、残念なことにも今をもってオーストラリアに帰国されるということで、とても寂しく思います。

## 会員便りにご投稿下さい

原稿締切: 掲載希望月の前月20日頃

送付: 郵便、Fax、E-mailにて事務局宛送付

写真: できればデジタル画像が望ましい

文字数: 日本語⇒500文字程度 英文⇒250word

## 投稿規定

大阪日米協会の会報誌への投稿(寄稿を含む)規定は次の通りです。

1. 投稿の原稿は日本語と英語でお願いします。
2. 投稿頂いた原稿は返却しません。但し写真やイラストはご指示に従い返却致します。
3. 投稿された原稿の選択と原稿の短縮や修正は大阪日米協会の判断にお任せ下さい。
4. 投稿される原稿は社会的・文化的・芸術的・国際的ななど、本会の目的に合う内容をお願いします。
5. 投稿者の中から抽選で粗品を差し上げます。発送をもって、発表に代えさせていただきます。

## ◆新入会員紹介◆

### 個人会員

松下 千鶴子(尼崎市) 松下 薫(尼崎市)

## 編集後記

3~4月は誌面をご覧の通り、多くの行事を開催いたしました。そんな中、やはり米国人会員の少なさを痛感させられております。そこで、まずは在阪米国人の方々に当協会のことを知ってもらうため、6月に「英語落語」を企画しました。在日米商工会議所等にも広報していただき、会員以外の方にも広く参加を呼びかけています。会員の皆様も日本人、米国人を問わず、お問い合わせの上、ご参加いただけると幸いです。





# News Letter



Vol.10

## 大阪日米協会/JAPAN-AMERICA SOCIETY OF OSAKA

4-1-13 Honmachi, Chuo-ku, Osaka, 〒541-0053, Japan Tel: 06-6263-9753, Fax: 06-6263-9773  
http://www.jaso-1946.com E-mail: jaso@takenaka.co.jp

### Spring Day Trip Hyogo: Himeji Castle and Sake Brewery of Nada, April 15, 2006 (Sat.)

We traveled from Nada in the east to Himeji in the west in Hyogo. Our first stop was a sake brewery in Mikage-go, one of the five sake-brewing areas of Nada, where we learned about sake brewing and tried sake tasting. In the afternoon, we visited Himeji Castle known as White Heron Castle and designated as world cultural heritage by UNESCO. In spite of the bad weather, the castle looked beautiful in the rain, trimmed with cherry trees in full bloom. We enjoyed the great scenery and the informative guided tours of the castle.



#### <Members' Comments>

Takao & Kazuko Yasuda (Osaka)

We are glad we joined the trip, although it was a cold and rainy day for mid-April. At Kobe Shushin-kan, we learned that the high-quality sake of Nada depended on the good water called Miya-mizu, big grain rice called Yamada-nishiki, cold wind from Mt. Rokko, sake barrels made of Yoshino cedar and skillful master brewers from Tamba area. Nada is the number one sake production area in Japan and, in Edo period, Nada's sake accounted for 70% of sake consumption in Edo. The rice is polished down to 35% before it can be used for sake brewing. What about the other 65%? Don't worry. It makes rice bran, crackers and even cosmetics, no waste at all. We tried sake tasting too. After the lunch break, we arrived at Himeji Castle and divided into three tour courses: hard, intermediate, and easy. We walked around the west wing on the "easy" tour. A gentle slope and a right turn led us to the courtyard, and we wowed. It was the glorious pink of weeping cherries among pale-pink Somei-yoshino cherries that jumped to the eye. It relieved our weariness. At Kouko-en, we had coffee with Ms. Tsujimoto, who was in the same tour, and felt happy that we had a good opportunity to make more friends with the members. Many thanks!



Unfortunate rain? No, it was a blessing! If it had been a sunny day, we would have been exhausted in a big crowd of cherry and castle viewers. I enjoyed good food and sake, beautiful castle and cherry blossoms.---Kenji Miki

I enjoyed tasting various kinds of sake and learned how sake changes its taste with time. It was also interesting to hear about impregnable defense of the castle.---Masaharu Ueda

### Lunch Lecture: "Carpentry Tools and Spirit of Craftsmanship" March 3, 2006 (Fri.)



We had Mr. Kenzo Akao, Director of Takenaka Carpentry Tools Museum, as the speaker at Mengyo Kaikan in Honmachi. He talked about Japanese traditional architecture and illustrated the highly developed skills of carpenters and their specialized carpentry tools using visual aids and anecdotes. After the lecture, we joined a guided tour of Mengyo Kaikan, which is designated as a National Important Cultural Property. The participants intently looked at each room with different decorations and ingenious equipment and listened to historical stories of pre-war prosperity and wartime confusion that this building went through.



### Spring Sumo Tournament & Talk with Ms. Watts March 26, 2006 (Sun.)



Ms. Katrina Watts' Sumo talk was a lot of fun as always. She told us interesting insider stories about Sumo ranging from characteristics of each Sumo stable and its master to how to read *banzuke* (ranking list) and how much money they make. The participants asked some unique questions as well. Ms. Watts accompanied us to the Sumo matches this time and explained some more on the spot. The tournament went into a playoff and the spectators were charged up. You cannot feel the excitement on TV! Unfortunately, Ms. Watts is going back to her country permanently. We are planning to invite a new guest next year.



## Upcoming Events

June 23, 2006 (Fri) 6:30 p.m.~

### English RAKUGO with Diane Orrett

Venue: Hotel New Otani Osaka

Diane Orrett, also known as Diane Kichijitsu, plays Japanese "sit-down" comedy RAKUGO in English. This will be a great opportunity for you to enjoy traditional Japanese comic story telling!



July 21, 2006 (Fri)

### Annual General Meeting & Reception 2006 at Rihga Royal Hotel







J. Thomas Schieffer,  
U.S. Ambassador to Japan

## Ambassador's Message

Attn: Mr. Toichi Takenaka, President of JASO

It gives me great pleasure to extend my heartfelt congratulations to you and the Japan-America Society of Osaka upon this occasion, the 60th anniversary of the Society's founding.

The foundation for a strong relationship between two countries is friendship and trust between each country's citizens. The Japan-America Society of Osaka has served to further strengthen and expand the friendship and goodwill between the people of the United States and Japan through 60 years of enthusiastic activities. The efforts of President Toichi Takenaka and the members of the Society, and the efforts of past society presidents and members have been significant and lasting testaments to effective international good will. When the President George W. Bush visited Kyoto last November, both he and Prime Minister Junichiro Koizumi were adamant that the two countries should work together to resolve global challenges. The United States and Japan will continue to wholeheartedly contribute to building peace and prosperity throughout the world, using the cooperative relationship between the two nations, and the sort of grassroots efforts exemplified by the Japan-America Society of Osaka, as a model.

I hope that another 60 years will see the Japan America Society of Osaka as influential and vital as it is today, a benchmark of civic diplomacy, and its example being followed world-wide. I thank you for this opportunity to participate in this momentous occasion, and am honored to offer my congratulations.  
Happy Sixtieth!

## Welcome Reception for Japan Society of Northern California Delegates

As the first of our 60th anniversary projects, we held a welcome reception for the delegates from the Japan Society of Northern California, who were visiting Japan on their centennial anniversary trip, on Friday, April 14th at 5 p.m. at the Ritz-Carlton Osaka. The reception was attended by Chairman John Thomas and 10 other members from JSNC and more than 20 members from JASO including Ambassador Amae. Following friendly greetings from President Takenaka of JASO and Chairman Thomas of JSNC, Vice Chairman Isao Matsuura of JSNC briefed us about the 100 years of history of the Society. We played a video about Osaka City and then President Takenaka explained some major projects in the urban area of Osaka. U.S. Consul Paul Howard proposed a toast and the attendees enjoyed socializing at the buffet style party.



Chairman  
John Thomas  
of JSNC



Vice Chairman  
Isao Matsuura  
of JSNC



## Soliloquy

On April 13th, we had a farewell party for Mr. and Mrs. Campanella with limited members of JASO including Consul General Daniel Russel. As he wrote in his farewell message to the last issue, Mr. Campanella, Vice President of JASO, is going back to the States after 58 years of his life in Japan. I would like to express our sincere appreciation for his long time contributions to the Society. Then, on April 14th, we really enjoyed the welcome reception for the delegates from the Japan Society of Northern California. It was a great opportunity to deepen our friendship. Let me introduce the inscription on the plaque presented to JASO from JSNC;

In Grateful Appreciation to  
Japan-America Society of Osaka  
For its Strong Commitment and  
Dedication to U.S.-Japan Relations and  
The Japan Society of Northern California  
April 2006  
Centennial Board Mission

Japan Society of Northern California  
April 14, 2006 Japan-America Society of Osaka



## USS Curtis Wilbur visits Osaka Port

The U.S. 7th Fleet Aegis destroyer Curtis Wilbur visited Osaka Port Monday, April 3. Secretary General Kurokawa of JASO attended the welcome ceremony in the morning at the invitation of the U.S. Consul General of Osaka-Kobe. Children from Osaka South Port Sakura Kindergarten presented flowers, including a bouquet from JASO, to the commander and crewmembers of the ship. President Takenaka was invited to the evening reception on board. Following Commander O'Donnell's greetings, Consul General Daniel Russel and former U.S. Ambassador to Japan Thomas Foley gave a speech. Commander O'Donnell in his greetings emphasized the importance of maintaining peace and stability for the next generation symbolized by those children who had handed flowers at the ceremony.



## Member's Column



Mitsuo Yano  
(Hakushika Sake Museum)

### Visit to Chicago

Healthy Japanese food is catching on worldwide and even some non-Japanese restaurants like so-called fusion food restaurants are incorporating sashimi and sushi into their menus these days. Following this trend, premium sake are appearing at "sake bars" in the States and attracting young people's attention. If such a cool style of drinking sake abroad is introduced back to Japan, it will appeal to young Japanese people as well. I was recently invited to the "Sake Seminar and Sake Tasting" event hosted by the Japan-America Society of Chicago. Chicago is a place I consider as my second home. This event may reflect the fact that the export of Japanese sake to the United States has increased by 20% for the second consecutive year. At the hottest club downtown Chicago called "Reserve", I talked about rich culture of Japanese sake and sake brewers, and then we had a *kagami-biraki* (sake barrel opening) and made a toast with wooden sake cups. With many attractions like sake tasting and a raffle featuring Japan-America airline tickets, the event was attended by many people, both Japanese and Americans, and was quite a success. We did the *kagami-biraki* wearing *happi* jackets with Japanese and American flags on them borrowed from JASO, and it got a lot of applause. The Japanese government has been running a "Visit Japan" campaign these days, trying to attract more tourists to Japan. We would like to serve this purpose by sending out information about sake-related Japanese culture at home and abroad.



Sho Nakamoto  
(Osaka)

### Sumo Watching

I joined the Spring Sumo watching with JASO. Before the matches, Ms. Watts, who is a commentator for NHK's bilingual BS broadcast, told us interesting stories about Sumo and highlights of this tournament. She became fascinated with Sumo after she came to Japan. I was impressed with her great knowledge and really enjoyed her talk. It is a pity that she is going back to Australia. After that, we moved to the stadium and finally got to watch the Sumo matches. First, Baruto from Estonia won the Juryo (lower division) championship without losing a single match. He is another promising Sumo wrestler from abroad. Kitazakura, who became popular with his entertaining performances for fans, posted a losing record but still received a lot of cheers. Ozeki Kaio, who might have retired if he had lost another match, beat Hakuho, who had already secured his promotion to Ozeki. Tochiazuma beat Yokozuna Asashoryu and salvaged the hope of his promotion to Yokozuna, leading the tournament into a playoff between Hakuho and Asashoryu. We were very excited with this perfect scenario! At the end, the champion Asashoryu, in his post-match interview, shouted "Thanks, Osaka! (*maido ohkini*)" in Osaka dialect and received thunderous applause. I hope that next year's Sumo watching will be as exiting as this one.

## Write for the Member's Column

Deadline of Contribution: 20th day of previous month for planned publication

Photograph: Digital picture if possible

Number of words: Japanese ⇒ about 500 characters  
English ⇒ about 250 words

Dispatch Method: Mail, Fax or E-mail to JASO office

### Contribution rules on the JASO News Letter

The following are the contribution rules to the JASO News Letter.

1. We would appreciate it, if you would write your manuscript both in English and Japanese.
2. The contributed manuscript will not be returned to you. However, we will return the photographs and illustrations if you wish.
3. Please understand that the JASO Office will judge the selection of the manuscripts among those submitted and also for editing.
4. The manuscript distributed will be in accordance with the aims of the Society, i.e., social, cultural, artist and international events.
5. Contributors will be awarded gifts, picked by lottery.

## New members

### Individual Members

Matsushita, Chizuko (Amagasaki) Matsushita, Kaoru (Amagasaki)

**Notes** As you can see in this newsletter, we had many events in March and April. And again we are concerned about the declining number of American members. In order to get American people to know about JASO, we are planning an "English Rakugo" event in June and to invite non-member Americans through organizations like American Chamber of Commerce. With that as a start, we would like to publicize this Society through more US-related channels. We would really appreciate it if you could invite your American and Japanese friends to our events too.